



## 第 6 学年 社会

### 日本の歴史 「新しい日本、平和な日本へ」

千葉市立小谷小学校  
指導者 横山 亮一

#### 1 研究主題

##### (1)全体テーマ

自ら学び、心豊かに生きる力を身につけた児童・生徒の育成

##### (2)部会主題

自ら解決できる力と生きる力を育てるメディア教育

#### 2 単元について

##### ねらい

本小単元は、学習指導要領の内容(1)のケに相当する。前小単元「長く続いた戦争と人々の暮らし」では、日中戦争から第二次世界大戦に至る歴史に関心をもち戦争の広がりの様子や戦時下での国民生活の様子など戦争の実態について理解してきた。また、学習を進める中で二度と戦争の惨禍を繰り返すことのないよう努力しようとする心情や平和の尊さについて考える力を育ててきた。

本小単元「新しい日本、平和な日本へ」では、日本国憲法の制定やオリンピックの開催などに関心をもち、第二次世界大戦後我が国が民主的國家として出発し、国民生活が向上して国際社会の中で重要な役割を果たしてきたことを、身近な人々からの聞き取りや映像・写真・文章等の資料を調べることにより理解できるようにするものである。さらに、戦後の復興を支えた国民の努力や国際社会における日本の役割について考えたり、平和を願う日本人として世界の人々と共に生きていこうとする心情を育てたりすることをねらいとしている。

##### 児童の実態

(省略)

平成 26 年 11 月 18 日(火)  
授業・協議会場所  
6 年 3 組教室  
授業 14:00～14:45  
協議会 15:00～16:30

#### 主な指導事項

日華事変、我が国にかかわる第二次世界大戦

日本国憲法の制定

オリンピックの開催

国民が大きな被害を受けたこと

戦後我が国が民主的な国家として出発したこと

戦後我が国の国民生活が向上したことや我が国が国際社会において重要な役割を果たしてきたこと

#### 指導要領に基づいて

日華事変、我が国にかかわる第二次世界大戦、日本国憲法の制定、オリンピックの開催について調べる学習 (内容(1)ケ)

### 3 単元の目標

日本国憲法の制定、オリンピックの開催など我が国の戦後の歩みを通して、戦後、我が国が民主的な国家として出発し、国民の不断の努力によって国民生活が向上し、国際社会の中で重要な役割を果たしてきたことがわかるとともに、平和で民主的な国家の一員として、これからの日本の課題やよりよい発展について考えられるようにする。

我が国の戦後の歩みから学習問題を見だし、地図や年表、家族の話、資料館、その他の資料を活用して調べたことをまとめるとともに、戦後、我が国が民主的な国家として出発し、国民の不断の努力によって国民生活が向上し、国際社会の中で重要な役割を果たしてきたことや、平和で民主的な国家の一員として世界の人々とともに生きていくことの大切さについて思考・判断したことを表現できるようにする。

### 4 評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	観察・資料活用の 技能	社会的事象に ついての 知識・理解
・我が国の戦後の歩みに関心をもち、進んで調べようとする とともに、平和で民主的な国家の一員として、これからの日本の課題やよりよい発展について考えようとしている。	・我が国の戦後の歩みについて、学習問題や予想、学習計画を考え表現するとともに、戦後、我が国が民主的な国家として出発し、国民の不断の努力によって国民生活が向上し、国際社会の中で重要な役割を果たしてきたことや、平和で民主的な国家の一員として世界の人々とともに生きていくことの大切さについて思考・判断したことを、言語などで適切に表現している。	・日本国憲法の制定、オリンピックの開催など、我が国の戦後の歩みについて、地図や年表、家族の話、資料館、その他の資料を活用して必要な情報を集めて読み取り、年表や作品などにまとめている。	・戦後、我が国が民主的な国家として出発し、国民の不断の努力によって国民生活が向上し、国際社会の中で重要な役割を果たしてきたことがわかっている。

### 5 単元の指導計画 (10 時間)

指導内容	主な学習活動	留意点
戦争のない世の中を目指して	戦争が終わった後の社会の変化について関心をもつ。 ・戦争が終わった直後の町は、人の数が多いが建物は仮に立てた小屋みたくて露天の店が並んでいる。 ・オリンピックの頃の町は、落ち着いた雰囲気がある。 ・同じ場所でも、数十年が経つと、ずいぶん変わっている。	建物、服装、道の様子など視点を絞って変化を捉えさせる。 変化には契機があり、理由を想像させる。
民主主義による国を目指して	戦後に行われた改革や日本国憲法について調べる。 ・民主主義国家として再出発するために、戦後の改革が行われた。 ・国民主権、基本的人権の尊重、平和主義を柱とした日本国憲法が制定されたこと。	戦後の改革の概略をつかませ、共通して目指すものを考えさせる。日本国憲法の目指す精神を捉えさせる。
再び世界の中へ	日本が国際社会の復帰を果たす直後の世界の動きや日本の様子について調べる。 ・世界では、植民地だった国々の独立や国際連合の発足などの動きがあったこと。 ・東西の対立、朝鮮戦争や核兵器の開発などの問題が生まれたこと。	産業の発展や生活の向上や力を注いだ人々の努力に目を向けさせる。 年表や写真を活用して独立までの経過概

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サンフランシスコ平和条約により、日本の独立が認められたこと。</li> <li>・日本が国際連合に加盟したこと。</li> <li>・国連の援助を受けて経済を立て直し復興を果たしたこと。</li> <li>・食べることに必死だった生活が向上し、三種の神器と呼ばれた電化製品が家庭に広まったこと。</li> </ul>	要を捉えさせる。
高度経済成長の中の東京オリンピック	<p>東京オリンピックの開催の様子や当時の人々の気持ちについて調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アジアで最初のオリンピックであること。</li> <li>・オリンピックに使うための競技施設だけでなく、ホテル、道路、下水道などが整備されたこと。</li> <li>・東京と大阪の間に東海道新幹線がつくられ移動の時間が大幅に短縮されたこと。</li> </ul> <p>東京オリンピックの開催前後の国民生活の変化について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テレビや自動車が普及したこと。</li> <li>・国民総生産が世界第2位になったこと。</li> </ul>	書籍資料、当時の新聞、情報を収集させ項目ごとに整理させる。 当時を知っている方々から国内の様子や、人々の気持ちについて収集させる。
これからの日本	<p>現在の日本が抱える課題や果たすべき役割について調べ、わかったことや考えたことを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国内の問題</li> <li>・外国との関係に関する課題</li> <li>・世界の課題</li> </ul>	身近に存在する問題やニュース、歴史学習で学んだ問題などを発表させこれからの世界のあり方を考えさせる。
学習のふりかえり	<p>戦後の出来事について、まわりの人にインタビューし、考えたことを話し合う。</p> <p>自分が生まれてからこれまでの出来事や世の中の動きを年表にして表す。</p> <p>歴史の学習を通して感じたことや考えたことを作文に書いて発表する。</p>	各種資料を参考にしできごとを見いださせる。共通する思いや違いを捉えさせる。他者の意見を尊重し自分の考えを深めさせる。

## 6 仮説との関連

### 仮説

それぞれの教育メディアの特性を生かして学習に活用すれば、情報活用能力が高まり、意欲的に学ぶ子が育つだろう。

「一斉学習」、「個別学習」、「協働学習」それぞれの学習場面において、ICT を活用した事例及び各学習場面において考えられる ICT 活用のポイントを以下に示す。

一斉学習では、挿絵や写真等を拡大・縮小、画面への書き込み等を活用して分かりやすく説明することにより、子供たちの興味・関心を高めることが可能となる。

教員による教材の提示：電子黒板等を用いた分かりやすい課題の提示

個別学習では、デジタル教材などの活用により、自らの疑問について深く調べることや、自分に合った進度で学習することが容易となる。また、一人一人の学習履歴を把握することにより、個々の理解や関心の程度に応じた学びを構築することが可能となる。

個に応じる学習：一人一人の習熟の程度などに応じた学習

調査活動：インターネット等による調査

思考を深める学習：シミュレーション等を用いた考えを深める学習

表現・制作：マルチメディアによる表現・制作

協働学習では、タブレット PC や電子黒板等を活用し、教室内の授業や他地域・海外の学校との交流学习において子供同士による意見交換、発表などお互いを高めあう学びを通じて、思考力、判断力、表現力などを育成することが可能となる。

発表や話し合い：考えや作品を提示・交換しての発表や話し合い

協働での意見整理：複数の意見や考えを議論して整理

協働制作：グループでの分担や協力による作品の制作

学校の壁を越えた学習：遠隔地の学校等との交流

### 本単元で期待すること

#### 教員による教材の提示

電子黒板や子供たちの情報端末に、画像、音声、動画などを提示することにより、提示内容を視覚的に分かりやすく伝える。

#### 調査活動

情報端末等を用いて写真・動画等の詳細な情報を収集・記録・保存することにより、確認や新たな気づきにつなげる。

インターネットやデジタル教材等を用いて、効率のよい調査活動と確かな情報収集を行うことにより、情報を主体的に収集・判断する力を身に付ける。

#### 発表や話し合い

情報端末や電子黒板等を用いて、個人の考えを整理して伝え合うことにより、思考力や表現力を培ったり、多角的な見方・考え方に触れたりする。

情報端末を使ってテキストや動画で表現や考えを記録・共有し、何度も見直しながらかし合うことにより、新たな表現や考えへの気づきを得る。

#### 協働での意見整理

情報端末を用いて、学習課題に対する互いの進捗状況を把握しながら作業することにより、意見交流が活発になり、学習内容への思考を深める。

情報端末等を用いて、互いの考えを視覚的に共有することにより、グループ内の議論を深め、学習課題に対する意見整理を円滑に進めることが可能となる。

#### 協働制作

グループ内で役割分担し、情報端末を用いて同時並行で作業することにより、他者の進み具合や全体像を意識して作業する。

写真・動画等を用いて作品を構成する際、表現技法を話し合いながら制作することにより、表現力を身に付ける。

## 7 本時の指導

### (1) 目標

東京オリンピックが開かれた頃の社会や国民生活の様子について、各種資料を活用して調べ、国民生活の向上や国際社会での役割、人々の働き、思いを考えられるようにする。

### (2) 本時の展開

学習活動と内容	○教師の支援 ◎評価	資料
<p>1 既習内容について振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>比較資料の確認 (学徒出陣 1944、東京オリンピック開会式 1964)</li> </ul>	<p>○我が国の復興と発展に関心をもたせ、学習課題を意欲的に追究させる。</p>	<p>ポスター 資料 机付ボード</p>
<p>戦争が終わったあと、東京オリンピックを開くまでに発展した日本は、どのように変わったのだろうか。</p>		
<p>2 日本がどのようにして短い期間で復興・発展してきたのか予想を立て、それを追究するための調べ学習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>世の中のしくみを変える改革が行われたからではないか。(政治の仕組み)</li> <li>外国が協力してくれたからではないか。(諸外国とのかかわり)</li> <li>日本人が努力してきたからではないか。(国民生活)</li> <li>産業が発達してきたからではないか。(産業)</li> </ul>	<p>○資料を通して国民生活や時代背景を読み取り、様々な要因によって復興・発展が進んでいくことに気付くようガイドする。</p> <p>◎民主的な改革と平和主義的な日本国憲法の制定により、新しい国として出発していったことを気付く。</p> <p>◎日本が国際社会に復帰を果たす前後の世界の動きや日本の様子について知る。</p> <p>◎国民生活が向上していった背景に、復興を願う国民の努力があったことを考える。</p> <p>◎高度経済成長によって日本が発展していったことを知るとともに、公害などの問題が起こったことについて知る。</p>	<p>教科書 資料集 デジタル コンテンツ コラボノート</p>
<p>東京オリンピックの開催の様子や、当時の人々の気持ちについて調べよう。</p>		
<p>3 東京オリンピックの開催や経緯、そのころの世の中の様子、国民生活の変化について、それぞれのコーナーで調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>開会式(参加国、入場行進、聖火ランナー等)</li> <li>閉会式(入場、人々の表情)</li> </ul>	<p>○映像、テキスト情報を端末で視聴できるようにする。</p> <p>○様々な資料を用意し、関心に沿った調べ学習ができるようにする。</p>	<p>デジタル コンテンツ 資料集</p>

<ul style="list-style-type: none"> <li>・オリンピックに向けて整備されたもの</li> <li>・国民の努力</li> </ul>	<p>○調べたことをデジタル付箋に記入したり、写真に保存したりして集約ページに書き込むよう指示する。</p>	<p>コポノト 大型 TV</p>
<p><b>【聖火ランナー】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・聖火が通った国々 ・戦争の被害にあった国々</li> <li>・最終聖火ランナー一覧</li> <li>・坂井義則さんについて（陸上選手・広島県生まれ） 1945/8/6</li> </ul> <p><b>【日本の復興】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オリンピック開催国と参加国数(2種類)</li> <li>・電化製品などの普及率の増加 ・三種の神器 ・テレビの普及</li> <li>・コンピュータシステム導入 ・獲得メダル数</li> </ul> <p><b>【オリンピックを成功させるための努力】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国家予算とオリンピック費用 ・年代の道路の様子 1950</li> <li>・交通網の整備 ・競技場等建設</li> </ul> <p><b>【その他】</b> ・公式標語 ・開会式と閉会式のちがい</p>		
<p>4 当時の国民は東京オリンピックの何に感動したのかを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本は 15 年戦争の反省から平和な国をめざしてきたので平和の祭典であるオリンピックを開けたことに感動した。</li> <li>・日本が独立国として認められるようになるまで何年もかかったので、オリンピックを通して国際社会への復帰を実感し感動した。</li> <li>・終戦直後、日本は焼け野原だったので、新幹線や高速道路が走ったりするまでに復活、発展したことに感動した。</li> </ul>	<p>○集約した画面を見ながら、全体で考えること、話し合いに参加することを促す。</p> <p>◎写真資料や映像資料を読み取らせたりすることで、当時の感動や熱狂を具体的に感じる事ができている。</p> <p>○メッセージを聞き、これからの日本（自分たち）がめざすべき方向を考える。</p>	<p>コポノト 大型 TV</p>

# 株式会社ジェイアール四国コミュニケーションウェア

## 紹介サイトから

### コラボノート for School

子どもたちの思考と交流を深め、「学びあい」を支援するネットワークソフトウェア

「活用型学力」「探究型学力」を育成するための、協働学習支援ソフトウェアです。子ども同士の「学びあい」や「情報活用能力」を支援します。

コラボノート®の発想は“電子模造紙”



なじみ深い模造紙の活動に、コンピュータならではの機能をプラス!

子どもでも簡単に操作でき、他の人の意見や活動がすぐわかるので、楽しみながら活き活きと相互学習できます。

学校を超えた交流が可能になる



インターネットにも対応しているので、地域の学校間や離れた学校間で意見を出し合ったり、共同で作品を作ったりといった、学校を超えた交流活動が可能になります。